資料１

特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について

１　諮問事項

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」

（審議期間：平成２８年１１月から平成３０年３月まで）

２　諮問の趣旨

近年、各地で地震・水災等の大規模な自然災害が発生しており、東京においても直下地震等による大きな被害が予想される中、「地域密着力」「要員動員力」「即時対応力」を兼ね備えている消防団には大きな期待が寄せられているところである。

また、特別区消防団は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催都市の消防団として大会の成功に向け、大会開催期間中の災害（テロ災害や火災）の未然防止と災害発生時における人的・物的被害を最小限にとどめるため、消防署隊と連携した警戒を実施する必要がある。

このことから、東京2020大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策について諮問するものである。

３　答申及び対応方針

１　活動体制の整備

主な答申内容	対応方針	対応年度
応援による警戒に伴い、消防団員の所属や身分の識別が必要	・消防団員証による識別	３１年度以降整備予定
消防団の応援による警戒を実施するため、関係規程に消防団の管轄区域外の警戒の規定が必要	・特別区消防団の災害活動等に関する規程の改正	３０年度以降改正予定

２　活動環境の充実

主な答申内容	対応方針	対応年度
夏の暑い時季の警戒となるため、警戒員に対する熱中症予防対策が必要	・酷暑対策用被服の整備（活動用帽子、ポロシャツ、Ｔシャツ）	３１年度整備予定
警戒中に発生した火災に対する消火活動時の負担の軽減が必要	・５０ミリホース、ガンタイプノズルの試行	３０～３１年度試行実施
夏の暑い時季に発生する、ゲリラ豪雨等による水災への対応が必要	・水害対策用資機材の整備（フローティングストレーナー、強力ライト、フロートロープ）	３１年度整備予定
発生した傷病者に対応するため応急救護能力の向上が必要	・ＡＥＤの整備	３０年度整備実施
広範な警戒範囲に対応するため迅速で確実な消防団相互の情報共有が必要	・アプリケーションを活用した情報共有の検証	３１年度検証予定

※　網かけの項目については、前回の品川区消防団運営委員会からの答申が反映されたものです。

３　活動能力の向上

主な答申内容	対応方針	対応年度
多数の来場が予想される外国人への対応能力の向上が必要	・英会話講習の実施	３０年度講習実施 ３１年度講習予定
多数の来場が予想される聴覚障害者への対応能力の向上が必要	・手話講習の実施	３０年度講習実施 ３１年度講習予定
警戒等に必要な教育を効果的に行うため、教育環境の向上が必要	・e-ラーニングシステムの活用による教育訓練の推進	３０年度から試行実施
警戒に必要な体力の維持向上が必要	・消防団応援の店へスポーツクラブの加入促進	３１年度加入促進予定

４　消防団の活性化策

主な答申内容	対応方針	対応年度
来場者等に対する消防団の広報のため消防団のアピールが必要	・酷暑対策用被服に対する消防団マーク等の表示	３１年度整備予定
消防団の活動力を確保するため更なる入団促進が必要	・機能別消防団員の導入促進	３０年度から導入促進実施

５　その他

主な答申内容	対応方針	対応年度
東京２０２０大会の警戒により消防団の負担が増加することから、消防団の行事の整理が必要	・団点検・操法大会の実施方法の検討	３０年度から検討実施